

平成 20 年 3 月 31 日

各 位

会 社 名 千代田化工建設株式会社
代表者名 取締役社長 久保田 隆
(コード番号 6366 東証第一部)
問合せ先 主計部長 楠 真治
(TEL 045-506-9410)

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

平成19年11月9日に公表した平成20年3月期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）の業績予想及び配当予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせします。

記

1. 平成20年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想(A) (平成19年11月9日発表)	570,000	22,000	32,000	19,500	101.43
今回修正予想(B)	590,000	7,000	18,000	10,500	54.61
増減額(B-A)	20,000	15,000	14,000	9,000	-
増減率(%)	3.5	68.2	43.8	46.2	-
(ご参考)前期実績 (平成19年3月期)	484,895	28,700	36,797	23,531	122.41

2. 業績予想修正の理由

売上高については、海外案件において獲得した追加受注額の増加や建設工事がピークに達したことによるものです。

営業利益等各利益項目については、カタールにおける工事従事者の逼迫による労務費の上昇及び生産性の低下が中間決算時点における予想を上回る規模で推移し、これに伴い工事費用が増加したことによります。その対策の一環としてカタール・ガス社第4,第5トレイン及びラス・ガス社第6,第7トレインについて本年1月末から2月末にかけて工期延長及び契約金額の増額(チェンジ)交渉を行い決着しておりますが、カタール・ガス社第6,第7トレインについてはチェンジ交渉がこれから本格化することや、サブコンや工期延長の追加コストの先行支出及び引当により、当第4四半期で大きな減益とせざるを得ない状況に至りました。

今回の損益の悪化の原因である工事従事者の逼迫や資材の高騰は、コントラクターのリスク管理の限界を遥かに凌ぐ規模で発生したカタール特有の事象であり、その他の海外、国内の工事損益やグループ会社などの業績は計画通りであります。カタールでは現在建設中の超大型LNGプラントが来期より順次完成する予定ですが、全社一丸となって計画通りに顧客に引き渡してチェンジを獲得することで、損益の回復を図って参ります。

なお、今回の修正にあたっては、想定為替レート的前提を、中間決算発表時の1米ドル110円から100円に変更しております。

3. 期末配当予想の修正

現金配当	1株当たり配当金(円)	
	期末	年間
前回発表予想(A) (平成19年11月9日発表)	18	18
今回修正予想(B)	10	10
増減額(B-A)	8	8
前期実績(平成19年3月期)	15	15

4. 配当予想修正の理由

当社は中期経営計画における配当方針において、継続した安定配当として1株10円またはそれ以上の水準を目指しており、平成20年3月期においては18円を見込んでおりました。しかしながら、大幅な減益となる見通しから、誠に遺憾ながら、通期の1株当たり配当金は10円に修正させていただきます。

5. 経営責任の明確化

現況を真摯に受け止め、経営責任を明確化するため、役員報酬の減額を実施します。

6. 見通しに関する注意事項

この資料に記載されている業績見通しは、種々の前提に基づく将来の予想であり、実際の業績は様々な要因により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。従いまして、これらの見通しのみを依拠した判断をされることは控えるようお願い致します。

以上